

## 2007年度 第4回 定例評議員会議事録

2008年5月7日

日本地質学会  
評議員会議長 新井田清信  
副議長 保柳康一

日時：2008年4月5日(土) 13:30-17:45  
場所：北とびあ901会議室(東京都北区王子)  
出席者：木村 学会長 伊藤谷生副会長

(評議員26名) <留任> 会田信行 足立勝治 安藤寿男 石垣 忍 石渡 明 井龍康文 岡 孝雄 小山内康人 新井田清信 針金由美子 松岡 篤 松田博貴 渡辺真人

<新任> 磯崎行雄 卜部厚志 永広昌之 大友幸子 川端清司 北里 洋 沢田順弘 高木秀雄 新妻信明 保柳康一 堀 利栄 松本俊幸 脇田浩二

(理事13名) 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 狩野謙一 公文富士夫 齋藤 眞 Simon Wallis 中山俊雄 久田健一郎 向山 栄 藤本光一郎 宮下純夫 矢島道子(事務局) 橋辺菊恵

欠席者 評議員(委任状13名)：浅野俊雄 阿部国広 荒戸裕之 加藤 進 紺谷吉弘 酒井治孝 柴 正博 徐 垣 中川光弘 丸山茂徳 三宅康幸 山路 敦 山根 誠  
欠席者 評議員(委任状なし1名)：井内美郎

理事(2名)：佃 栄吉(副会長) 倉本真一  
\* 成立員数(21/40)に対し、出席26名、委任状13名で、評議員会は成立。  
\* はじめに、松岡 篤、石渡 明 両評議員を書記に選出。議事に先だち、木村会長

のあいさつがあった。会長から事務局職員の橋辺菊恵氏に対し40年勤続の表彰が行われ、記念品が授与された。

### 報告事項

#### I 理事会報告

##### 1 運営財政部会

###### 1) 総務委員会

庶務関係(担当理事：上砂)

- ・富士山学会よりの富士山科学看板設置調整委員会の専門委員1名の推薦については、高橋正樹会員の承諾が得られ、推薦した。
- ・日本ジオパーク連絡協議会(会長：米田徹 糸魚川市長)が設立された(12月26日)。学会宛に「ジオパーク推進に関わる要請書」が寄せられた。
- ・科学教育研究協議会より第55回全国研究大会(石川県加賀市、8月2日-4日)の後援依頼があり、例年通り承諾した。
- ・日本粘土学会より第52回粘土科学討論会(沖縄県那覇市、9月3日-5日)の共催依頼があり、承諾した。
- ・日本活断層学会より、「能登半島地震1周年シンポジウム」(5月18日、七尾市)の後援依頼があり、承諾した。
- ・産総研(申請者：小笠原正継氏ほか)より屋久島のポスター(地質標本館グラフィックスシリーズ9)に対し、日本地質学会推薦の名義要請があり、承諾した。
- ・東レ科学技術研究助成に、地質学会から応募した東大の加藤泰浩会員の「同位体を指標とする固体地球の応答の解明」が採択された。文部科学省の若手科学者賞に対し、地質学会からの応募者は採択されなかった。

技術者継続教育(CPD)委員会(委員長・担当理事：公文)

- ・2月28日に第2回「土質・地質技術者生涯学習協議会」が開催。当協議会として建設系のCPD協議会に加わり、共通のCPD単位が認定される方向で調整中。ジオスケーリングネットの改良・強化が進行中。もう1年は正規の分担金負担を参加団体が負担する。(協)関西地盤環境研究センターからの新規加入を認め

地質科学関連学協会連合

地理学関連学協会連合

- ・3月28日に地理学連合総会が開催。

会員関係(担当理事：中山)

- ・前回から今回までの入退会ほか会員の動静

##### (1) 入会

正会員(3名)：Rehman Hafiz Ur 渡辺敬三 平塚延幸  
院生割引(1名)：横山正敬  
準会員(5名)：泉 健太 三谷明日華 津田龍一 田中麻衣 Wu Lan

- (2) 退会者(賛助2社、正79、院8、準2)
- (3) 逝去(正2名)：福田正光(2007/12/8) 長田幸久(2007/12/7)
- (4) 除籍者(正124名)：2004年からの滞納者を3月末で退会手続きをとる。
- (5) 会員の動静(2008年3月31日現在)

	賛助会員	名誉会員	正会員(内院生割引)	学生会員	合計
2008.3.31	32	74	4216(265)	37	4359
2007.11.30	34	74	4428(270)	39	4575
前回比	-2	0	-212(-5)	-2	-216
昨年比	-2	0	-73(-17)	-8	-83

・2008年度50年会員顕彰者：1958年入会者(12名)

岡野武雄 笠井勝美 梶間和彦 菊地隆男 口野道男 佐田公好 高野武男 中島秀雄 根本 守 長谷川美行 府川宗雄 和田温之

会計関係(会計委員長：佐々木和彦、担当理事：向山)

- ・2007年度収支決算案および2008年度収支予算案  
向山理事より、収入は減ったが支出も減ったので結果的に黒字になっている旨説明があった。

##### 2) 広報委員会(担当理事：倉本)

- ・地質学雑誌表紙デザイン選考委員会を設置し、公募作品を厳正に審査する。

##### 2 学術研究部会

###### 1) 行事委員会(担当理事：齋藤)

- ・2009年開催地：西日本支部岡山地区 会場：岡山理科大学  
会期は岡山理科大学の都合により2009年9月4日~6日となった。

- ・秋田大会について  
シンポジウム1件、セッション4件を鉱物科学会と共催にする。参加費については調整が必要。

###### 2) 専門部会連絡委員会(担当理事：天野)

- 会員のファイルに専門部会情報を登録できるようにになったので、改めて、専門部会の登録を進め、メーリングリストの作成をおこなう。登録の呼びかけ、状況説明をNews誌に流す。

###### 3) 国際交流委員会(担当理事：公文)

- ・日-タイ小委員会の発足(委員：久田健一郎・上野勝美・仲谷英夫・曾根正敏・脇田浩二)
- ・日-モンゴル小委員会(委員：東田和弘・坂巻幸雄・大藤 茂・高橋裕平)
- ・日-フィリピン小委員会(委員：松岡篤・尾上哲治・渡部直喜)

###### 4) 研究委員会

- (1) 南極地質研究委員会(委員長：廣井美邦)

・資料にて報告あり。

### 3 編集出版部

1) 地質学雑誌編集委員会 (担当理事, 編集委員長: 狩野, 副委員長: 久田, 企画部会担当: 宮下)

・雑誌編集状況 (4月4日現在)。

114-3月号: 論説3・短報1・口絵1 (48ページ発行済)

114-4月号: 教育特集号 (総説5), 一般論文 (論説2) (校正中)

2008年度投稿論文数29編 [論説18 (和文16 欧文2), 総説8 (和文8) 短報1, 討論1 報告1] 口絵1

投稿数昨年比 +4 査読中53編 受理済み12編 (うち 報告1, ノート2 討論1 口絵を含む)

・地質学雑誌表紙新デザイン募集について, 3/31に募集を締め切った。計27件の応募があり, 審査委員会を立ち上げ5/25総会までに最終決定の予定。

企画部会 (宮下)

・特集号: 下記4件の特集号が査読および投稿準備中

「最終間氷期の環境変動-日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して-」査読中  
「プレート沈み込み帯と地震」(世話人: 廣野哲朗ほか) 査読中

「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」(世話人: 高木秀雄ほか) 投稿準備中

「モデル実験で探る地形・地層形成過程のダイナミクス」(世話人: 横川美和ほか) 投稿準備中

2) 企画出版委員会 (担当理事: 藤本)

1. リーフレットとして, ①国立公園地質リーフレット たんけんシリーズ2「屋久島」, ②地層処分に関するもの (地質環境長期安定性研究委員会企画提案) が進行中。

3) Island Arc連絡調整委員会 (委員長: 会田信行)

科学研究費補助金が3月で終了したが, 出版社との交渉により, その後1年間は会員の無料ダウンロードが継続できることになった。更にその後はサービス低下の可能性あり。

4) Island Arc編集委員会 (編集事務局長: 竹内圭史・角替敏昭, 担当理事: WALLIS)

原稿は十分な数が投稿されており, ほぼ予定通りの頁数で順調に出版されている。

年間頁数を増加させることで出版社と合意しており, 年6号化も視野に入れている。

4 普及教育事業部会 (担当理事: 矢鳥)

1) 地学教育委員会 (委員長: 阿部国広)

① 地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」(委員: 阿部国広)

・資料にて報告あり。

2) 生涯教育委員会 (委員長: 柴 正博, 担当理事: 藤本)

・「地質の日」関連事業についての博物館等での協力。

・ジオサイトの博物館の登録に対するの協力。

・地質学会のホームページむけ資料としての各博物館での観察会などイベント予定の収集。

3) 地質基準委員会 (委員長: 新妻信明)

・「第二次地質基準説明書」は, 各地質体の地質体形成過程が力学特性とどのように関係しているかについても説明を付ける方針で原稿作成・編集を行っている。ダム建設時に定常的に実施されている現地における剪断応力試験結果を, 現地における地質体に対応させて整理して検討を加える準備を行っている。

・「地質学用語辞典」については掲載項目の最終選定を行い記述方式を検討中。

・「海の地質基準」については最終編集段階にあり, 入稿準備中である。

5 その他 (理事会関係の委員会等の報告)

1) ジオパーク設立推進委員会 (委員長: 佃 栄吉, 委員: 渡辺真人)

・ジオパーク支援委員会の設立にあたりメンバーを決定した。委員会は5月に足尾。天野一男 (委員長), 田近 淳, 竹谷陽二郎, 立石雅昭, 三田村宗樹, 高橋治郎, 大木公彦, 高木秀雄 (日本ジオパーク委員会委員), 矢鳥道子, 渡辺真人

2) 学会就業規則整備委員会 (委員長: 立石雅昭, 代理報告: 伊藤)

・「就業規則改正案」について答申案を策定し理事会に提出した。

3) 就職支援ワーキンググループ (委員長: 伊藤)

理事会のものとWGとして, 向山理事, 矢鳥理事, 伊藤に, 若手から成瀬元 (千葉大), 小松原純子 (産総研) が加わって3月11日に第1回目の会合。就職をめぐる現状についての意見交換を行ったあと, 以下の確認を行った。

1. 秋田大会で第2回目の企業説明会を行う (向山理事が準備を開始する)。

2. 第2回目のWGを5月ごろ開催する。第2回目に向けて次の作業を行う。

1) 企業の若手からWGに入って貰う。

2) 地質学関係の職域を拡大するためにも, 地質学をバックに, あるいは地質学に興味をもって多方面で活躍している人々をニュース誌等で紹介

するシリーズを組む。

3) 若手の就職の現状について, 研究職, 技術職, 社会教育を含む教育職, 行政職など職種別にデータを収集し, 分析する作業を開始する。

## II 各種委員会報告 (評議員会関係)

1. 各賞選考委員会 (委員長: 安藤寿男)

・12/25締め切りの各賞に関して, 会員および推薦委員会から推薦されてきた日本地質学会賞, 柵山賞の候補について, 選考検討委員会を設置し選考を諮問した。同委員会委員長は互選により狩野謙一氏となった。

委員長: 狩野謙一, 委員: 木村 学・齊藤靖二・嶋本利彦・平 朝彦, 磯崎行雄, 渡部芳夫, 石渡 明, Simon WALLIS, 小川勇二郎, 巽 好幸, 伊藤谷生, 宮下純夫

・Island Arc賞について, 同編集委員会に選考を諮問した (石渡 明, Simon WALLIS委員長)。

・論文3賞 (論文賞, 小藤賞, 研究奨励賞) 授賞候補者の選考結果報告

特に, 研究奨励賞の結果報告につき議論があった。

2. 名誉会員推薦委員会 (担当理事 委員長: 伊藤副会長)

・2008年度名誉会員候補者として, 次の6名の会員を選出した。

増田孝一郎会員 石田志朗会員 杉崎隆一会員 加藤 誠会員 沖村雄二会員 柴田 賢会員

3. 女性地球科学者の未来を考える委員会 (委員長: 堀 利栄)

・名称変更ならびに規約改正について

4. 法人化実行委員会 (委員長: 齊藤靖二) 公益法人のガイドライン案が出たことなどが資料にて報告された。

## III 選挙管理委員会 (委員長: 加藤 潔) 選挙結果は既にニュース誌に報告済み。

## IV その他

1. IYPE日本 (佃 副会長)

・資料にて報告あり。

2. 地質の日事業推進委員会 (藤本委員)

・資料にて報告あり。

3. 地球惑星科学連合 (木村会長)

・3月14日, 連合の法人化に関する公開討論会ならびに第7回 (拡大) 評議員会が開催された。

・連合は2010年にAOGSとのジョイント開催を計画中である。

・連合地学オリンピック小委員会 (久田)

1) 本年8月のフィリピン大会のため日本全国から358名の中学生・高校生が第1次選抜試験に参加した。第2次選抜試験は5月31日。

2) 科学技術振興機構 (JST) による, 今年度第2回フィリピン大会派遣費用支授

は不採択となった。来年度第3回台湾大会の国内選抜等(本年12月開始予定)に関わる費用支援は採択された。

- 3) 4月19日に国際地学オリンピック日本委員会の組織委員会、運営委員会が正式に発足する。
- 4) 生物と化学は日本開催が決定。

#### 4. 学術会議関係(木村会長)

再編後3年になるので会員の改選があり、地球科学関係の6名の会員のうち、2名(平朝彦・岡部篤行)が留任、4名(入倉孝次郎・河野長・永原裕子・碓井照子)が改選。

### V 理事会審議事項(主なもの)報告

#### 1. 地質学雑誌の表紙リニューアルについて

3月31日メ切で表紙デザインを一般公募し、採用作品には賞金50,000円を与える。

2. 男女共同参画学協会連絡委員会(=地球惑星連合)より、学術振興会事業における女性審査委員候補者推薦依頼があり、女性地球科学者の未来を考える委員会の協力を得て、田崎和江、堀利栄の2会員を推薦した。

3. 就職支援活動に関する検討を行うWGを立ち上げた。

WGメンバー:向山、矢島、伊藤各理事会、ほかに小松原(産総研)、成瀬(千葉大)

#### 4. 法人登録の準備にかかる実務体制について

法人登録の準備にかかる実務体制委員会を設置することとし、これによって法人化実行委員会は発展的に解消することとする。

- ・委員会は4月以降発足予定  
渡部・天野(正・副常務理事) 上砂(総務担当理事) 向山(会計担当理事)  
藤本光一郎(理事) 坂口有人 佐瀬和義(要請中)
- オブザーバー:篠原顧問会計士 高木顧問弁護士 山本司法書士(監事)

5. 国際地学オリンピックの支援について  
学会としては普及事業の一環と位置づけ、会計的に検討し、07年度予算で寄付を、08年度以降は協賛することとした。年会での中高生発表会等と合わせて、地質学会では来年度事業で両者を普及事業の柱として実施することを再確認した。

6. タイ地質学会長から会長に年会への招待があり、久田理事が代理で出席した。訪問に際しオリジナル楯を作成し、交流記念に贈呈した。

7. 日本記念日協会に5月10日の「地質の日」の登録申請(申請料52,500円)を行い受理された。

8. 選挙執行・管理体制の制度的整備について

平成19年度選挙管理委員会からの意見書が紹介され、検討した。

9. 各賞選考への理事会推薦委員会の本年度運用について

本年度の理事会推薦委員会は、立ち上げの遅れから、推薦委員への事前の説明や、推薦母体である理事会としての推薦文書の確認当の手続きに不手際があり、委員会や委員に迷惑をおかけすることとなった。実績としては推薦が得られたので、今後も推薦委員会のご協力を得ることとし、経緯と今後の対応について検討し、各賞選考委員会ならびに各賞検討委員会、当該推薦委員に報告した。

#### 10. 学会活動における政治団体・組織との関係について

学会の広報等で、特定の政治団体・組織に係るお知らせ等をどのように扱うか、一定のガイドラインが必要と判断し、法務委員会に検討を依頼した。

#### 11. 地層処分に関するリーフレットの企画承認について

地質環境の長期安定性研究委員会の吉田委員長並びに高橋委員からの説明を受け、一般市民を対象とした日本の地質に関する客観的データを分かりやすく紹介するものを作成する、また、理事会で進行を見守ることを条件に、企画を進めることを承認した。

12. 来年度事業計画と、対応した予算計画の最終案確定した。

13. 除名申し立てにかかる学会手続きの策定について

法務委員会からの報告を受け、法務委員会には明文化された規定の範囲では、対応が不可能の部分がある。幅をもった判断をしていく必要があるということ要望した。

14. 学会就業規則整備委員会(委員長 立石雅昭)に就業規則の改正を諮問し、答申を受けた。

15. 総会議案を確定し、3月号News誌に告示を掲載した。

### 評議事項

1. 2007年度決算案、2008年度事業計画および予算案についてはこれを承認した。

2. 各賞選考結果について  
提案のあった各賞候補を一括承認した。

審査対象となり落選した論文について、審査過程で引用の不備が指摘されたことが安藤各賞選考委員長から報告された。この件については、地質学雑誌の編集委員会に取り扱いを委ねて地質学会として対応することになった。各賞の推薦の仕組み、推薦期間などの今後の改善について、各賞選考委員会から理事会に申し送ることとなった。

- 1) 日本地質学会賞(1件)  
榎並正樹(名古屋大学大学院環境学研究所)  
対象研究テーマ:高圧・超高压変成岩の研究

- 2) 日本地質学会榊山雅則賞(1件)  
片山郁夫(広島大学地球惑星システム学専攻)  
対象研究テーマ:沈み込み帯のダイナミクスと水の役割

- 3) 日本地質学会論文賞(3件)  
・竹内 誠・河合政岐・野田 篤・杉本憲

彦・横田秀晴・小嶋 智・大野研也・丹羽正和・大場 穂高, 2004, 飛騨外縁帯白馬岳地域のペルム系白馬岳層の層序および蛇紋岩との関係。地質学雑誌, 第110巻, 第11号, p.715-730.

・清川昌一, 2006, ベリース国に分布する白亜紀・第三紀境界周辺層, アルビオン層:チチュル プクレータに近接したイジェクタとその堆積層。地質学雑誌, 第112巻, 第12号, p.730-748.

・Aoki, K., Iizuka, T., Hirata, T., Maruyama, S. and Terabayashi, M., 2007, Tectonic boundary between the Sanbagawa belt and the Shimanto belt in central Shikoku, Japan. 地質学雑誌, 第113巻, 第5号, p.171-183.

- 4) 日本地質学会小藤賞  
齋藤 真・川上俊介・小笠原正継, 2007, 始新世放射状化石の発見に基づく屋

久島の四十帯付加体の帰属。地質学雑誌, 第113巻, 第6号, p.266-269.

- 5) 日本地質学会研究奨励賞(3件)  
・丹羽正和(日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門)

対象論文:丹羽正和, 2006, 海洋性岩石のスラブで特徴付けられる付加体の岩相と変形構造~岐阜県高山地域の美濃帯小八賀川コンプレックスを例として~。地質学雑誌, 第112巻, 第6号, p.371-389.

・長谷川 健(北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻)

対象論文:長谷川 健・中川光弘, 2007, 北海道東部, 阿寒カルデラ周辺の前-中期更新世火砕堆積物の層序。地質学雑誌, 第113巻, 第2号, p.53-72.

・福成徹三(名古屋大学)

対象論文:Fukunari, T. and Wallis, S., 2007, Structural evidence for large-scale top-to-the-north normal shear displacement along the MTL in Southwest Japan. Island Arc, vol.16, no.2, p.243-261.

- 6) 日本地質学会 Island Arc賞  
Chang Whan Oh, Sung Won Kim, In-Chang Ryu, Toshinori Okada, Hironobu Hyodo and Tetsumaru Itaya, 2004, Tectono-metamorphic evolution of the Okcheon Metamorphic Belt, South Korea: Tectonic implications in East Asia. Island Arc, 13, 387-402.

3. 名誉会員候補者の推薦について  
推薦委員会より提案された6名の会員を、名誉会員候補として総会に推薦することを承認した(II-2 名誉会員推薦委員会報告参照)。

4. 除名申し立てにかかる学会手続きの策定について

除名の総会に提案するまでの手続きの詳細が会則には示されていないことから、法務委員会として、現在検討中であることが報告さ

れた。

#### 5. 選挙手続きの改善について

理事会から改善案が示され、今後の学会体制にもよるが、改善できることから順次対応

したとの説明があり、了承した。

#### 6. その他

「女性地球科学者の未来を考える委員会」の名称変更と規約の改正について

上記委員会の名称を今後は「男女共同参画委員会」とすること、それに伴う委員会規約の一部改正を承認した。

# CALENDAR

2008.5～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

☆印は、日本地質学会行事。

## 2008年

### 5月 May

#### ★日本地質学会第115年代議員総会

5月25日(日) 17:30～19:00

会場：幕張メッセ国際会議場303会議室

<http://www.geosociety.jp/outline/content0017.html>

#### ○日本地球惑星科学連合2008年大会

5月25日(日)～30日(金)

会場：幕張メッセ国際会議場

<http://www.jpogu.org>

### 6月 June

#### ○地球地図フォーラム2008

6月5日(木)～7日(土)

会場：国際連合大学

<http://www.gmforum2008.org/top.html>

#### ★関東支部 第2回研究発表会「関東地方の地質」・支部総会

6月8日(日) 10:00～17:00

会場：早稲田大学国際会議場第1会議室

<http://kanto.geosociety.jp/>

#### ○Geoinforum2008 第19回日本情報地質学会総会・講演会

6月12日(木)～13日(金)

場所：北海道大学百年記念会館大会議室

<http://www.jsgi.org/>

#### ○地質学史懇話会

6月22日(日) 13:30～17:00

場所：北とびあ9階902号室 (JR京浜東北線王子駅下車3分)

上杉 陽：富士山宝永噴火

香掛俊夫：弘法大師の地質観、自然観

#### ★中部支部年会

6月28日(土)～29日(日)

28日：総会・シンポジウム「歪み集中帯とフォッサマグナ」

29日：地質見学(未定)

会場：新潟大学五十嵐キャンパス

<http://www.geosociety.jp>

### 7月 July

#### ○日本古生物学会2008年年会・総会

7月4日(金)～6日(日)

場所：東北大学(宮城県仙台市)

シンポジウム：環境指標としての後期新生代微古生物学と古海洋学の進展(4日)

<http://www.soc.nii.ac.jp/psj5>

#### ○堆積学スクールOTB2008

「タービダイトと海底扇状地のダイナミクス」

7月19日(土)～21日(月)(集合は18日夜)

場所：北海道立厚岸少年自然の家

<http://sediment.jp/>

### 8月 August

#### ○International Geological Congress OSLO 2008 (The 33<sup>rd</sup> IGC)

8月6日(水)～14日(木)

<http://www.33igc.org/>

#### ○第2回国際地学オリンピック

8月31日(日)～9月7日(日)

場所：フィリピン共和国

<http://www.jpogu.org/ieso/>

#### ○6th International Conference on Asian Marine Geology

- Asian Waters explored by advanced research of 21st Century -

8月29日(金)～9月1日(月)

場所：高知市

<http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/>

### 9月 September

#### ○第12回岩の力学国内シンポジウム

9月2日(火)～4日(木)

会場：山口大学工学部(山口県宇部市)

講演原稿提出期限：5月16日(金)

<http://www.mmij-kyushu.com/JROCK2008/>

#### ○第52回粘土科学討論会

9月3日(水)～5日(金)

会場：沖縄ポートホテル

<http://www.soc.nii.ac.jp/cssj2/index.html>

#### ○土木学会第63回年次学術講演会

9月10日(水)～12日(金)

場所：東北大学川内北キャンパス

<http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h20/index.html>

#### ○The 11th International Conference on Thermochronometry (FT2008)

9月15日(火)～19日(金)

場所：アメリカ合衆国アラスカ州 ホテルキャプテンクック

<http://www.union.edu/ft2008/index.html>

#### ○2008年度日本地球化学学会年会

共催：日本地質学会ほか

9月17日(水)～19日(金)

会場：東京大学教養学部

<http://www.geochem.jp/meeting/>

#### ★日本地質学会第115年学術大会

9月20日(土)～22日(月)

場所：秋田大学

<http://www.geosociety.jp>

### 12月 December

#### ○IUMRSアジア国際会議 2008

12月9日(火)～13日(土)

場所：名古屋市国際会議場(名古屋市熱田区西熱田町1番1号)

主催：日本MRS(Materials Research Society of Japan(MRS-J))

<http://www.iumrs-ica2008.jp/index.html>